

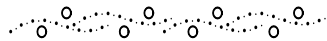


岡田小学校 令和7年度 学校だより

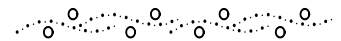
9月5日発行

ふ れ あ い

学校の様子→



学力向上の鍵は・・・



「well being」という言葉を聞いたことがありますか？ well の「よい」と being の「状態」からなる言葉で、わかりやすく言うと、自分にとっての幸せとは何か、みんなにとっての幸せとは何かを考え、よりよく生きていこうとすることです。

将来を担う子どもたちが、「well being」を実現していくためには、自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付けることが重要視されています。

一方、日本の子どもたちの実態を見ると、「自律的に学ぶ自信がない」「失敗を恐れる」「自分の考えを書くことが苦手」といった傾向が、全国学力・学習状況調査の結果にも表れています。また、日本は世界の中で、「社会人になってからも自己研鑽・自己啓発を行わない」人の割合が高く、自分を信じて学び続ける力の育成が課題となっています。

そこで、岡田小学校では、今年度から以下のテーマで授業づくりをしています。

自己調整学習のできる児童の育成 －児童が自身を受け入れる活動を通して－

自己調整学習とは、子どもたちが学習に主体的にかかわり、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を調整しながら、自分が立てた目標を達成させる学び方です。そのためには、自分の学びが「今、どこにあるのか」現在地をつかみ、今後、目標を達成させるためには、「どのように学んでいくとよいか」学習改善の視点が大切になります。

そのためのキーワードが、子どもを主体的にさせる「振り返り」です。

「振り返り」とは、自分の学びの現在地がわかり、今後、どう学んだらよいかが見えてくるものです。つまり、自分の学習活動を振り返って、次の学習活動につなげるものです。また、振り返ることで、書いてまとめる力が育ちます。



このように、岡田小学校では、「振り返り」を大切にしながら、子どもたちが「やってみよう」という動機付けを工夫したり、学習の見通しを立てたり、友達との対話によって自分の考えを広げたり深めたりしながら、自身の学びの成長や変容を自覚できるようになると、きっと学力は向上するだろうと考えています。

(校長 小嶋 正嗣)

振り返りのポイントはココ!



授業は、「はじめ・なか・やまば・おわり」で構成されており、振り返りは、「はじめ」と「おわり」で大切に扱っています。

<授業のはじめ>

※前時の授業を振り返り、本時の学習課題につなげます。

→前の授業のおわりに、できるようになったことだけでなく、「できなかったこと」「わからなかったこと」を基に次の授業の課題を設定します。その課題を、授業のはじめに共有しながら、今日の授業で何を目指して取り組むのか、目標を立てます。そして、その目標を達成するための見通しを立てます。

<授業のなか>

※課題を解決するために、まず個人で考えます。その後、「ペアで考える・グループで考える・全体で考える」といった対話を取り入れながら、自分の考えを広げたり深めたりします。

※「個々の特性や学習進度、学習到達度、興味・関心、なりたい自分」といった個に応じた指導を取り入れながら、学習内容の定着を図ります。

<授業のやまば>

※自分の学びは、「本当にこれでよかったのか?」を振り返り（問い直し）、再度、考え直したり、練り直したりします。その結果、自分の学びはこれでよかったのだと自信につながったり、友達の意見から、この考えの方がいいなと感じたりして、新たな気づきが生まれます。

→先生から新たな視点や反対の価値を投げかけられたり、中間発表で自分の学びに対して友達から感想や意見をもらったりします。

<授業のおわり>

※今日の授業を通して、自分の学びがどうだったのかを振り返ります。

①できるようになったことを書きます。

→どうしたらできるようになったのかを書くといいです。

②友達の「いいな」と思ったことを書きます。

→自分との共通点や相違点を書くといいです。

③できなかったこと・わからなかったことを書きます。

→どうしたらできるようになるのかを書くといいです。

④次の授業でチャレンジしたいことを書きます。

→自分の成長につながる課題を書くといいです。

できなかったことをできるようにすることが、本当の学びです。